視　察　報　告　書

報告者氏名　阿部治正　印

1　期　　日２０１８年２月８日（木）

2　視察地及び調査事項

（１）千葉県松戸市

ア　松戸市総合医療センターの役割について

イ　松戸市の子どもの貧困対策について

3　所感等

松戸市総合医療センターの視察においては、特に周産期医療への先進的な取組に関心を持って臨みました。千葉県には、大きく９つの医療圏が設定されていますが、当医療センターはそのうちの複数の医療圏に対応する総合周産期母子医療センターという位置づけであり、そして東葛北部地域における周産期母子医療センターとしての役割も担っています。

先ず産科は、切迫流産、妊娠高血圧、合併症妊娠、双胎妊娠前置胎盤などの、高いリスクを抱えた妊婦に対応出来る設備と体制を備えています。また、赤ちゃんのケアを始め、保護者が抱える子育ての不安に対しても相談体制を整えています。

次に新生児科では、最新鋭のＮＩＣＵ（新生児集中治療室）が備えられ、未熟児、重度の呼吸障害、仮死状態などで治療が必要な赤ちゃんを１２人まで受け入れる体制が整えられています。また、ＮＩＣＵを離れることが出来た、症状の安定した赤ちゃんをケアするＣＧＵ（継続保育室）も、２８人まで受け入れられる体制が整えられています。

新しく建設された病院ということもあって、地震に備えての建物全体の免震機能が備えられており、地階部分の巨大な装置も見ることが出来ました。また、屋上に設置されている、ドクターヘリが発着出来るヘリポートも見せて頂きました。

重い病気や障がいを持った子どものための院内の教室も見ましたが、デザインやイラストや色合いなどが子ども向けに工夫をされていました。また、感染症の子どもたちのための病室も、友だちが見舞いに来たときにも隔たりを感じさせずにコミュニケーションが取れるように、大きいガラス面越しにお互いに向かい合えるような工夫もなされていました。

松戸市の子どもの貧困対策については、千葉県内でもかなり進んだ取組としてかねてより関心を持っていました。

先ず注目しなければならないのは、市長がリーダーシップをとり、子ども部の参事監をリーダーとして、９つの部、１５の課からなる庁内横断組織としての「子どもの未来応援検討チーム」を組織して課題に取り組んでいる点です。

次ぎに、子どもの学習支援事業に、国が生活困窮者自立支援法を改正して子どもの学習支援をメニューに加える以前から、松戸市独自の取り組みを開始していることも、注目に値します。松戸市内の４箇所で実施しており、来年からは５箇所に増やすそうです。

また、学習支援事業は貧困家庭だけを対象にするものではなく、ひとり親家庭に対する家庭学習の支援事業も展開しています。

そして、学校教育相談事業として、中学校１校をモデル校として、スクールソーシャルワーカーを固定設置し、教育相談を行っています。

さらには、こうした施策をさらに確かなものとするべく、子育て世代の生活実態調査にも取り組んでいます。この調査は、保護者だけでなく、中学校と小学校の生徒自身も対象にしている点で、ユニークであり、画期的でもあります。

もちろん、松戸市がこうした取組に乗り出した背景には、松戸市議会による執行部に対する粘り強い働きかけがありました。こうした点も含めて、多くのことを学ぶことが出来、大変に意義深い視察となりました。流山の市政、子どもの貧困対策にも、是非活かしていきたいと思います。